

海岸松林の再生活動と里山における竹林整備の取組

本荘海岸林を守る会 会長 ○保科 恵一
事務局長 富樫 悦雄

1 課題を取り上げた背景

「本荘海岸林を守る会」は由利本荘市を主体に活動しています。由利本荘市は秋田県の海岸南部に位置し、西には日本海、南側には東北第2位の霊峰鳥海山2,236mを仰ぎ見ることが出来ます。癒しの川として有名な一級河川、子吉川の流域で、最近は「鳥海山・飛島」として日本ジオパーク認定を目指し官民学共同での活動が盛んな自然豊かな所です。



写真－1 鳥海山

松くい虫被害で壊滅状態となった松林を再生育成させるため、かつて地元の篤志家である石川善兵衛氏が地域のため個人で海岸防備林を造成し、現在は国有林あるいは市有林となっている田尻地区、市民の散策公園でもある水林地区を主とした松の生育環境を守る活動をするを目的として、平成22年11月27日に20名ほどの会員で当会を設立しました。



写真－2 設立総会の様子

そんな素人集団でも森林に親しみながら作業をする度に、徐々に林業の技術を習得し、森林の役割を体感してまわりの人たちにも森林の大切さを伝えていく事が出来るようになってきました。最初に植えた松も、最近では2mほどに育って活動が目に見えるようになると、会員にも達成感が出てきました。



写真－3 植樹指導の様子

2 取組、活動内容

海岸林の再生に向けては、ほとんど新植しましたが、中には現地に天然で生育している苗を植え替えたり、繁茂がいちじるしい箇所の本数を調整するための抜き切りも行っていました。しかし、植林した松が枯れたり、せっかく育った松を下刈の際に切ってしまうなど失敗を重ねながら施業技術を身につけてきた素人集団で、活動目的が「松林の育成」と言っても、会員の多くが素人で手探り状態というのが実情でした。



写真－4 植樹箇所での下刈作業

また、由利森林管理署主催で行われる「小学生や高校生の植樹や体験活動」「森づくりの集い」等への協力も含め活動しています。児童や生徒への体験授業は、ほとんどの会員が孫に接しているようで、会員にとっても楽しいふれあいのひと時となっています。

更に、あまり目立ちませんが、本荘海岸林のなかで普段人目につかない場所のクリーンアップ活動も行っています。ゴミがある場所は「ゴミがゴミを呼ぶ（ゴミを寄せ付ける）」と言われていています。景観保全と地球温暖化防止のためのクリーンアップで「思いは地球、活動は足元から」との思いが、地域住民と共同で実施することによりその意識が更に広がることを期待しています。



写真－5 クリーンアップの様子

次に、「森林・山村多面的機能発揮対策事業」についてです。平成25年から、林野庁の補助金を活用し、里山や竹林の整備にも取り組んでいます。森林所有者と協定を結び、地元住民と一緒に竹林整備活動をして地域活性化の推進や子供たちとの交流をしています。「あきた森づくり活動サポートセンター」からサポートを頂き由利森林管理署から機材を借りたりして事業を行っています。



写真－6 竹林整備作業の様子

里山竹林整備は、平成26年国文化財指定となった旧由利町の旧鮎川小学校を拠点として地域住民と共に活動しています。竹を伐採整備するだけではなく、炭原料とし

て秋田県立大学への提供や竹粉碎機を借りてチップを作り、プランターへの散布や畑へのすき込み、路盤改良材など会員にも配布して広く活用されています。

会員の多くは、山に入る事や竹を切るのは初めてのため、山形県遊佐町、鶴岡市三瀬地区など県外への研修にも参加し、竹の活用方法や竹の除間伐、竹炭作りなどを学び、現地でも森林とのふれあいを体験しました。

地域住民や他団体と協働、あるいはご協力を戴いての活動が会員の視野を広げ、森とのふれあいの広報に結びついています。たとえば、主な団体として、作業地から近い矢島のNPOや赤田・ロッカ森、湯沢・新所の森、横手・銭神の森、東由利・山遊庭の森、秋田クリーンパートナーやあきたエコマイスター由利班などの団体とも協働、協力があります。



写真－7 竹林整備作業の様子



写真－8 炭原料として搬出

3 取組、活動の成果

現在の会員数は、徐々に増えて48名になりました。森とふれあって遅しくなりました。でも内面は思いやりいっぱいの方です。

今年度初めて由利小学校の児童に「竹林の整備と竹の利活用」を学ぶ教室を開催しました。これは、「地元の事を学ぶ」授業の一環で、ほとんどの子供たちは竹林に入ることタケノコ採りも初めてとの事でしたが、地元の自然を満喫し竹の活用方法などを学び、森とのふれあいを楽しんだ1日となりました。



写真－9 竹チップ製造の様子

当日は、早朝から準備で雑草の刈払いや安全を確認。児童への竹の生態の説明、「楽しいタケノコ掘り体験」、竹を使った製品づくりをし、最後はタケノコ料理の試食をし体験学習を無事終了しました。

児童が森林・竹林とのふれあう機会として、「地元の竹資源を身近に体感」した感想が秋田魁新報に掲載されました。取材記者にも児童が口をそろえて「タケノコ掘りが楽しかった。」と答えていました。



写真－10 竹林でタケノコを収穫

4 考察

海岸林の再生育成のみならず、地球温暖化防止や生物多様性の保全に繋がる「思いは地球、活動は足元から」を旨に、会員相互が知恵を出し合い、協力しあっています。

また、会員の中には伐採作業のベテランもいてアドバイスを頂き、ベテランから「作業が歯がゆい。」と言われながらも、慣れないヘルメットを被り、楽しく和気あいあいと安全第一で作業をしています。



写真－11 タケノコを食べて昼食

ボランティア活動は自らが楽しくないと続きません。活動を通じて、教えられる事もたくさんあり、地域の皆様と楽しみながら、森や自然の恩恵について学び、地域の住民とこれからも森林とのふれあいをしていきたいと考えています。



写真－12 頼もしくなった会員